

積立投資で始めてみませんか

記録更新!!

2017年8月末の公募投信の純資産残高が、2年3カ月ぶりに過去最高を更新しました。

日銀の上場投資信託(ETF)買いが残高を押し上げていることや、個人マネーの「貯蓄から資産形成へ」の流れが進み、50歳代以下の現役世代を中心に、積立投資が拡大していることなどがその要因にあげられます。2014年からスタートしたNISAでも積立投資をする人が増えています。来年からは新たに積立NISAも始まるので、積立投資は今後も拡大していきそうですね。

■公募投信純資産残高推移 (期間:2012年8月末~2017年8月末)



NISAを有効活用するには

金融庁の調査によると、NISAの年間買付額は年々増えていて、その6割程度が投信を買付けています。

一般的に、長期の資産形成に適している商品としてバランス型投信があげられます。確かに、リスクを抑えて安定的に収益を得ることは長期の資産形成にとって重要です。しかし、リスクは高くても成長が見込めるファンドのほうが、NISAのメリットをより受けられる可能性があります。なぜかという、年間の非課税投資額に上限があるNISAですが、非課税の対象となる利益額そのものには上限がないからです。そのため、同じ投資額ならば、値動きは大きくても成長株に投資するファンドのほうが、大きく値下がりがりするリスクもありますが、上昇局面ではより大きな値上がり益が期待できます。

積立でテーマ型ファンド

成長株に投資するファンドの中では、AIやロボティクスファンドのように投資対象を絞ったテーマ型のファンドなどが、売れ筋上位の常連になっています。リスクが高い資産への投資は怖いと思われがちですが、リスクが高いものほど、積立投資で時間を味方に付けた長期投資が、短期的な価格変動に惑わされないための有効な手段となります。もちろん容易なことではありませんが、長期的な成長を見通せば、保有期間が長くなるほど投資先の資産がもつ本来のリターン(債券の利金収入、企業の利益成長など)の積み上がりが大きくなり、過去の長期間の平均値に近づくことが期待できます。

積立投資を活用して、ポートフォリオに値動きの大きな資産も加えてみてはいかがでしょうか。

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものではありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。